

CEFR を参照した日本人タイ語学習者の 到達度レベルに関する考察

ー学習者アンケート調査分析からー

Study of the achievement levels of Japanese Thai language learners
in referring to CEFR

- Based on the analysis the survey results -

スニサー ウィッタヤーパンヤーノン (齋藤)

Sunisa WITTAYAPANYANON (SAITO)

東京外国語大学世界言語社会教育センター

World Language and Society Education Centre

Tokyo University of Foreign Studies

要旨

本研究は、東京外国語大学タイ語専攻カリキュラムにおける1年目、2年目のタイ語学習者が、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）を参照した形での到達度レベルにおいて、どのレベルに達しているかの調査結果分析となる。今回の調査を通して明らかになったこととしては、東京外国語大学タイ語専攻カリキュラムは、「聞く」、「話す」といったコミュニケーション能力を習得するのに適したものとなっていること、そして1年生時点からCEFRにおけるA1、A2レベルの学習項目を混在しながら学習していることがある。今回のアンケートは非EU言語共通のものであるため、タイ語の能力を適切に測るためには、タイ語特有の言語的特質や社会・文化的特質を反映したアンケート項目を検討していくことが必要となる。

Abstract

This study analyzes the survey results regarding the achievement levels of first and second year degree students studying the Thai language as their major at the Tokyo University of Foreign Studies. The achievement level refers to CEFR (the Common



European Framework of Reference for Languages). The results of this survey revealed that the learning curriculum for the Thai language at the Tokyo University of Foreign Studies is well-designed to enhance communication skills such as “listening” and “speaking,” and that students study learning material equivalent to CEFR A1 and A2 levels concurrently, from their first year onwards. However, the survey used in this study is common for all non-EU languages. It is necessary to re-design a survey that is unique to the Thai language and addresses the linguistic features as well as the social and cultural features unique to the Thai language, to help measure the achievement level of the Thai language more accurately.

キーワード： 外国語としてのタイ語教育、CEFR、タイ語教育スタンダード、言語能力到達度調査

Keywords： Teaching Thai language as a foreign language, CEFR, Standard Thai language teaching methodology, Survey of achievement level in language skills

I. 調査目的

スニサー(2017a)では、東京外国語大学タイ語専攻の1、2年生時のカリキュラムで用いられる教材上での到達度レベルに関する分析を行ったが、そこでの課題の1つとして、実際の学習者の到達度レベルに関する分析の必要性が提示されていた。本研究は東京外国語大学タイ語専攻カリキュラムを受講している学習者の到達度レベルを調査し、その調査結果を分析、考察するものである。

調査方法としては、富盛伸夫、ソ・アルム(2014)が非EU言語の学習者アンケート調査で使ったものと同じの質問票を用い、ヨーロッパ言語共通参照枠(Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching assessment 以下、CEFR と略称する)と照らし合わせた形で、東京外国語大学タイ語専攻学習者の到達度レベルを、学習者の自己評価を通して明らかにすることを試みている。まず、第2章で今回実施した調査方法を示し、第3章で調査結果を述べている。第3章の中では、まず調査結果の全体像を示し、次に能力別到達度

レベルの分析を通し、東京外国語大学タイ語学習者に見られる傾向と課題を観察するとともに、スニサー(2017a)で行った東京外国語大学タイ語専攻カリキュラムで用いられる教材の到達度レベルとの比較・分析を行い、現在の東京外国語大学タイ語専攻カリキュラムの特徴や課題を明らかにしている。第 4 章では調査結果のまとめを行い、最後に第 5 章で今回の調査を今後のタイ語教育へどうやって活かしていくべきかを述べる。

II. 調査実施方法

今回の調査は、東京外国語大学タイ語専攻の 1 年生 18 名、2 年生 13 名(本来の対象者は 16 名であるが、調査日に 3 名が欠席)を対象に 2017 年 12 月に実施している。富盛伸夫、ソ・アルム(2014)が使用した質問票は CEFR での A1 レベル 44 項目、A2 レベル 84 項目の能力記述文から構成されている。A1 レベルの 44 項目、A2 レベルの 84 各項目は全て「理解する(聞く、読む)」、「表現する(話す、書く)」、「コミュニケーションする(話し言葉、書き言葉)」のいずれかの言語能力に属するものとなっている。質問票については、本稿末の資料を参照されたい。なお、A2 の項目 55 と 56 は印刷ミスのために重複していたため、56 を除外し調査を実施している。質問票は全て共通の選択式の回答となっており、1=できない、2=あまりできない、3=なんとかできる、4=できる、から回答する形式となっており、今回の調査では、タイ語専攻の 1 年生、2 年生とも同一の質問票を用いている。調査手順は、タイ語に関する授業の中で、教員が配布した質問票に学習者が 15 分ほどで「直感的に」能力記述を自己評価し、記入を行った。

III. 調査結果

本研究での評価方法として、個人差はもちろんあるものの、「3=なんとかできる、4=できる」と回答した者については、自己評価として到達度レベルに達しているものとみなすこととする。

1. 調査結果：全体

全体の回答結果を一括して総合した結果は、表 1、表 2 の通りとなる。

表 1：A1 レベル（44 項目）全回答結果比率

回答	1	2	3	4	3+4
1 年生	4%	21%	49%	26%	75%
2 年生	1%	5%	35%	59%	94%

表 2：A2 レベル（84 項目）全回答結果比率

回答	1	2	3	4	3+4
1 年生	10%	38%	41%	11%	52%
2 年生	8%	35%	43%	14%	57%

表 1 が示す通り、A1 レベルに達していると自己評価した 1 年生は 75%、2 年生は 94%に達していることから、1 年生から 2 年生にかけて、総合的に A1 レベルには到達しているとみなすことが可能である。

A2 レベルについては、到達度レベルに達している 1 年生と 2 年生の比率の差が A1 レベルよりもより拡大する結果となることが予測されたが、表 2 の通り、到達度レベルに達していると自己評価した 1 年生が 52%であるのに対し、2 年生が 57%となっており、逆に回答比率が 1 年生と 2 年生で極めて類似した結果を見せていることが特筆すべき点である。この点については、CEFR の A2 レベルの学習項目が現在の東京外国語大学タイ語専攻のカリキュラムでは 1 年生時点から織り込まれていることが推測されるが、詳細の解明は今後の研究課題としたい。また、2 年生の回答として、今回の分析で到達度レベルに達しているとみなしている「3＝なんとかできる、4＝できる」では 60%未満、「4＝できる」に至っては 14%しかないことから、2 年生時点において、総合的な A2 レベルはまだ達してないとみなさざるを得ない。

2. 調査結果：能力別

能力別の調査結果については、表 3、表 4、表 5 の通りとなる。

表 3 : A1 レベル(44 項目)能力別回答結果比率と到達度レベル順位

回答			1	2	3	4	3+4	順位
1 年 生	理解する	聞く	0%	3%	48%	49%	97%	①
		読む	2%	17%	54%	27%	81%	③
	表現する	話す	1%	16%	52%	31%	83%	②
		書く	9%	29%	45%	17%	62%	⑤
	コミュニケーション する	話し言葉	4%	25%	51%	20%	71%	④
		書き言葉	22%	56%	19%	3%	22%	⑥
2 年 生	理解する	聞く	0%	0%	29%	71%	100%	①
		読む	0%	1%	43%	56%	99%	②
	表現する	話す	0%	7%	24%	69%	93%	④
		書く	0%	3%	33%	64%	97%	③
	コミュニケーション する	話し言葉	0%	8%	37%	55%	92%	⑤
		書き言葉	12%	19%	54%	15%	69%	⑥

表 4 : A2 レベル(84 項目)能力別回答結果比率と到達度レベル順位

回答			1	2	3	4	3+4	順位
1 年 生	理解する	聞く	7%	29%	52%	12%	64%	②
		読む	18%	42%	32%	8%	40%	⑤
	表現する	話す	5%	28%	51%	16%	67%	①
		書く	18%	39%	33%	10%	43%	④
	コミュニケーション する	話し言葉	8%	42%	40%	10%	50%	③
		書き言葉	19%	52%	25%	4%	29%	⑥
2 年 生	理解する	聞く	0%	22%	52%	26%	78%	①
		読む	12%	45%	35%	8%	43%	⑤
	表現する	話す	1%	28%	53%	18%	71%	②
		書く	10%	25%	50%	15%	65%	③
	コミュニケーション する	話し言葉	10%	38%	38%	14%	52%	④
		書き言葉	12%	47%	35%	6%	41%	⑥

表 5 : 到達度レベル 能力別順位

		①	②	③	④	⑤	⑥
A1	1 年生	聞く	話す	読む	話し言葉	書く	書き言葉

		(97%)	(83%)	(81%)	(71%)	(62%)	(22%)
	2 年生	聞く (100%)	読む (99%)	書く (97%)	話す (93%)	話し言葉 (92%)	書き言葉 (69%)
A2	1 年生	話す (67%)	聞く (64%)	話し言葉 (50%)	書く (43%)	読む (40%)	書き言葉 (29%)
	2 年生	聞く (78%)	話す (71%)	書く (65%)	話し言葉 (52%)	読む (43%)	書き言葉 (41%)

まず、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」という基本の 4 技能を見ると、A1、A2 の両レベルにおいて 1 年生、2 年生とも、総じて「聞く」、「話す」の方が、「読む」、「書く」よりも到達度レベルが高い傾向となっている。篠塚勝正(2008)では、第二言語習得においては「読む」→「書く」→「話す」→「聞く」という順番で習得されるようになる、としているが、今回の調査結果を見ると、単独の個人的言語活動の「読む」、「書く」よりも、コミュニケーション能力の必要な「聞く」、「話す」の方が先に高い到達度レベルに達しており、東京外国語大学のカリキュラムは、全体として対人的コミュニケーション能力向上を重視した内容になっていることが分かる。

A1 レベルを見てみると、「聞く」、「話す」を測る質問項目に対して、「3=なんとかできる、4=できる」と回答している 1 年生の割合は、「聞く」が 97%、「話す」が 83%と高い比率で到達度レベルに達している。この要因の 1 つとして、東京外国語大学タイ語専攻のカリキュラムでは、1 年生時から、会話などの一部の授業において、タイ語だけで行われていることの効果であると考えられる。会話の授業は会話 A、B という 2 つの科目から構成されている。会話 A では日本語も使いながらタイ語の各種表現を学び、会話 B では会話 A で学習した表現を使って、タイのレストランやタクシー、商店等で必要とされる会話の練習を行っているが、授業はタイ語だけで行われている。それらの授業で使用する教材の内容は、本文が会話文であり、それに伴い表現も話し言葉中心となっている。また、1 年生の聴解の授業では会話 A、B と同一の教材を使用し、「聞く」ことに特化した訓練も行っている。同教材には、MP3 での音声データが付属しており、独習でも「聞く」練習ができるようになっている(スニサー2017a)。

一方、「読む」については 81%の 1 年生学習者が「3=なんとかできる、4=できる」と回答しているものの、「書く」は 62%、「書き言葉」については 22%のみである。これは、多様な(非アルファベット系の)文字体系をもつアジア諸語の学習に

関して「読む」「書く」「書き言葉」で自己評価が低いことは、大きな障壁があることを示唆している(富盛、Yeong-il 2016)という指摘とも合致するものであるが、2年生の段階になると A1 レベルの「書く」と「書き言葉」の到達度が、それぞれ 97%、69%と大きく向上した結果となっている。この結果について、2年生春学期より文字の運用能力向上を目的としたプログラムが組み込まれているためであると考えられるが、1年生時点ではタイ文字の習得に多大な労力を要するため、1年生春学期で集中的にタイ文字の仕組みを習得するが、「書く」ことに焦点を当てた授業が1年生秋学期にないこと(スニサー2017a)が要因の1つと考えられ、今後「書く」、特に「書き言葉」の向上を目的としたカリキュラムを1年生秋学期に組み込むことを検討することが必要と思われる。

次に A2 レベルを見ると、「聞く」、「話す」については、1年生時点でそれぞれ 64%、67%が到達度レベルに達しているのに対し、「書く」が 43%、「読む」が 40%となっており、A1 レベルと同様に「聞く」、「話す」の方が、「読む」、「書く」よりも到達度レベルが高い結果となっている。

「聞く」の到達度レベルが A1 同様高い要因として、カリキュラムの中でタイ語を聞くことが出来る多種多様な機会が設けられていることが考えられる。例えば、2年生ではテレビやラジオの生のタイ語を聞く練習を授業に取り入れている他、アクティブラーニングとしてタイ人留学生へインタビューの実施、タイの協定大学のタイ人学生とインターネットで会話をする機会を設定している。加えて、大学の文化祭ではタイ語劇がタイ語専攻 2 年生全員参加のもとで行われるが、それに向けてタイ映画を視聴する時間が多く取られている。さらには 2 年生になる前の春休みの期間には 20 日間程度、タイでの短期研修プログラムが開催されている。

「話す」に関して、A2 レベルに達している学習者は 1 年生が 67%であるのに対し、2 年生は 71%と 3 ポイント差、また「話し言葉」については、1 年生が 50 %、2 年生＝52%と 2 ポイント差とほとんど差がない。これは現在の東京外国語大学タイ語専攻カリキュラムが CEFR に沿って開発されている訳ではないため、1 年生、2 年生のカリキュラムで A1、A2 レベルの表現が混在しており、話すことが出来る内容やレベルが CEFR と一致していない結果につながっている。タイ語学習において、CEFR での A1、A2 レベルの混在を初期段階から可能とし得る要因として、まずタイ語の言語的特質が挙げられる。タイ語は日本語や印欧諸言語とは異なり、

活用や接辞などの形態論的手段を用いず、1語が1形態素となる孤立語である。そのため、時制や動詞変化を学習する必要はなく(スニサー2017a)、印欧諸言語と比べると、初期段階からレストランやタクシーなどの多様な場面での表現を学習していくことが可能となる。また、タイ語特有の社会・文化的特質の1つとして相手との距離を縮めることが重要とされており(スニサー2017b)、例えば家族や好き嫌いなどの身近な話題は、早い時点で習得しておくことが求められる内容であり、実際に教材でも初期段階に織り込まれている。一方、今回の調査で用いた質問票では、家族や身近な話題といったことがA2レベルに含まれており、こういったタイ語特有の言語的特質と社会・文化的特質が相まって、「話す」や「話し言葉」に関して、1年生と2年生で殆ど差異がない結果になったものと考えられる。

「読む」についても、A1レベルでは「聞く」、「話す」と同様に1年生、2年生ともそれぞれ81%、99%と高い到達度比率であったが、A2レベルとなると、1年生は40%、2年生は43%と大きく落ち込み、かつ1年生と2年生でほとんど差がほとんどない状態となっている。1年生と2年生で到達度レベルに差がない点については、前述の「話す」と同様にCEFRの内容と東京外国語大学タイ語専攻カリキュラムの不一致が要因の1つと考えられるが、A2レベルにおいて到達度レベルが落ち込んでいる点と合せて、これらの点の解明は今後の研究課題としたい。

「書く」については、A2レベルとなると1年生で到達度レベルに達している学習者が43%であるのに対して、2年生は65%と22ポイントの向上が見られる。これは前述のA1レベルでの分析と同様、「書く」ことに焦点を当てた授業が2年生春学期から設定されていることが要因の1つと考えられる。

3. 教材と学習者自己評価による到達度比較

次にカリキュラムで使用している教材と実際の学習者の到達度レベルについての検証を行う。

スニサー(2017a)で行った東京外国語大学タイ語専攻カリキュラムでの使用教材に関する能力別の分類と富盛伸夫、ソ・アルム(2014)のアンケート項目分類では、同じCEFRを参照元としているものの一部分類方法が異なるため、スニサー(2017a)での教材分析と今回のアンケート調査結果の比較を行うために、以下の区分にて能力項目の対比を行うこととした。

教材分析時の 能力分類	理解すること		話すこと		書くこと	
	聞くこと	読むこと	やり取り	表現	書くこと	
	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
アンケート項目 での能力分類	聞く	読む	話し言葉	話す	書く	書き言葉

この分類に基づき、教材での到達度レベルと実際の到達度レベルの比較については、1年生は表6、2年生は表7の通りとなっている。

表6：1年生使用教材での到達度と1年生による到達度自己評価比較

1年生使用教材での到達度

全体的尺度 =A2	理解すること		話すこと		書くこと
	聞くこと	読むこと	やり取り	表現	書くこと
	A2	B1	A2	A2	A1

1年生による到達度自己評価

		聞く	読む	話し言葉	話す	書く	書き言葉
A1	1	0%	2%	4%	1%	9%	22%
	2	3%	17%	25%	16%	29%	56%
	3	48%	54%	51%	52%	45%	19%
	4	49%	27%	20%	31%	17%	3%
	3+4	97%	81%	71%	83%	62%	22%
A2	1	7%	18%	8%	5%	18%	19%
	2	29%	42%	42%	28%	39%	52%
	3	52%	32%	40%	51%	33%	25%
	4	12%	8%	10%	16%	10%	4%
	3+4	64%	40%	50%	67%	43%	29%

まず1年生では「聞くこと」と「表現」が教材ではA2レベルの内容となっているのに対して、A2レベルの内容に対して、今回の到達度レベルに達しているとみなしている「3=なんとかできる、4=できる」と自己評価した学習者は「聞く」で64%、「話す」で67%に達しており、教材と学習者の実際の習得レベルが最も合致している能力である。

「やり取り」については、教材が A2 レベルであるのに対し、「話し言葉」で A2 レベルの到達度に達していると自己評価している学習者は 50%となっている。「やり取り/話し言葉」の能力としては、受動的な能力では不十分であり、相互的「やり取り」的技能が必要となるため(富盛、YI Yeong-il 2016)、到達度レベル向上のためには、よりインタラクティブなカリキュラムが必要とされる。

「読むこと」は教材が B1 レベルであるの対して、「読む」に関して、A2 レベルに達していると自己評価している学習者は 40%という結果となっている。B1 レベルに該当する項目でのアンケート調査は行っていないため、あくまで仮説となるが、A2 レベルに達していると評価している学習者が 40%という状況から、B1 レベルに達している学習者の数は極めて少ないと予想され、「読むこと/読む」能力の効果的学習という視点においては、現行カリキュラム、及び使用教材をさらに詳しく見る必要がある。

「書くこと」は教材が A1 レベルであるのに対して、62%の学習者が「書く」こと自体は A1 レベルに達していると自己評価しているが、「書き言葉」の到達度は 22%にとどまっている。この要因として、CEFR A1 レベルの「書き言葉」に関するアンケート項目を見ると、改まった形式、つまり書き言葉での短文を書くことが求められているのに対し、現行の教材ではその内容は織り込まれていない(スニサー2017a)。しかしながら、カンボジア語、ビルマ語、タイ語、ベンガル語、ペルシア語といった初期の文字習得の難易度が高い言語では、8ヶ月までの学習者では「書き言葉」の能力が著しく低く(富盛、Yeong-il 2016)、また日本人タイ語学習者は初期段階においてタイ文字の習得に多くの労力を要し、タイ文字の習得において A1 の前段階となる A0 レベルの設定が必要であることから(スニサー2017a)、アンケートで示されている A1 レベルの「書き言葉」に関する到達度レベルの内容を1年生のカリキュラムに織り込むことは現実的ではないと考える。

表 7：2 年生使用教材での到達度と 2 年生による到達度自己評価比較

2 年生使用教材での到達度

全体的尺度 =B1	理解すること		話すこと		書くこと
	聞くこと	読むこと	やり取り	表現	書くこと
	B1	C1	B1	B1	B1

2 年生による到達度自己評価

		聞く	読む	話し言葉	話す	書く	書き言葉
A1	1	0%	0%	0%	0%	0%	12%
	2	0%	1%	8%	7%	3%	19%
	3	29%	43%	37%	24%	33%	54%
	4	71%	56%	55%	69%	64%	15%
	3+4	100%	99%	92%	93%	97%	69%
A2	1	0%	12%	10%	1%	10%	12%
	2	22%	45%	38%	28%	25%	47%
	3	52%	35%	38%	53%	50%	35%
	4	26%	8%	14%	18%	15%	6%
	3+4	78%	43%	52%	71%	65%	41%

次に 2 年生時点での比較分析となるが、教材での到達度レベルは全能力とも B1 レベル以上であるのに対して、今回のアンケート調査の質問項目は A1、A2 レベルに限定したものとなっている。そのため、今回の調査結果では、B1 レベル以上の例示的能力記述項目についての到達度に関するデータは得られていないが、A1、A2 レベルへの到達度状況に基づき、一部教材と学習者の到達度レベルに関する考察を行うこととする。

「聞くこと」、「表現」とも教材では B1 レベルとなっているが、今回のアンケートで A2 レベルに達していると自己評価している学習者は「聞く」が 78%、「話す」が 71%といった結果となっており、これらの能力については、教材の示す到達度レベルである B1 にも達している可能性が高いと推測される。

次に教材の内容と学習者の到達度レベルが近いと考えられる可能性があるのが、「書くこと/書く・書き言葉」となる。「書くこと」に関する教材での到達度レベル B1 であるのに対して、65%の学習者が「書く」ことについて、A2 レベルに達していると自己評価している。但し、1 年生時点と同様、「書き言葉」の到達度につい

では41%と「書く」と比較すると低いものとなっている。

一方、「やり取り/話し言葉」について、「やり取り」に関する教材での到達度レベルはB1であるのに対し、学習者でA2レベルへ到達していると自己評価した学習者は52%といった結果となっている。これは前述の1年生での分析と同様、到達度レベル向上のためには、よりインタラクティブなカリキュラムが必要である。

さらに「読むこと/読む」については、教材がC1レベルであるのに対し、A2レベルに達していると自己評価した学習者は約43%にとどまっている。今回のアンケート調査の質問項目はA1、A2レベルに限定したものであり、C1レベルに該当する項目でのアンケート調査は行っていないため、あくまで仮説となるが、A2レベルに達していると自己評価している学習者が43%という状況から、C1レベルに達している学習者の数は極めて少ないと予想され、「読むこと/読む」能力の効果的学習という視点においては、現行カリキュラム、及び使用教材をさらに詳しく見る必要がある。

IV. 調査まとめ

今回の調査結果の分析を通して、明らかになったことの1つとして、東京外国語大学タイ語専攻カリキュラムは、1年生、2年生の段階では、「聞く」、「話す」といったコミュニケーション能力を習得するのに適したものとなっていることである。表6、表7で示した通り、「聞く」、「話す」とも1年生の教材での到達度レベルがA2であるのに対して、「聞く」で64%、「話す」においては67%の学習者がA2レベルに達していると自己評価している。2年生においては「聞く」、「話す」とも教材はB1レベルであるが、「聞く」は78%、「話す」は71%がA2レベルに達していると自己評価している。これらの結果から、「聞く」、「話す」については、教材と学習者の到達度レベルが最も近い状況であるとみることが可能であり、効果的な学習効果が得られていることが分かる。

また、表2で示されている通り、A2レベルの回答内容について、1年生と2年生の全体回答比率が非常に類似している結果であったことから、1年生時点からCEFRにおけるA2レベルの内容を学習していることも明らかとなった。この点について、現行カリキュラムはCEFRを参照し開発されたものではなく、CEFRを「外

国語としてのタイ語教育」にどのような形で適用すべきかの検証はこれからであるため、CEFR における A1、A2 レベルが 1 年生、2 年生のカリキュラムに混在していることは大きな問題ではないと考える。

今回のアンケートは非 EU 言語共通のものであるが、タイ語に特化したものではなく、タイ語特有の言語的特質や社会文化的特質が反映されたものではないため、タイ語運用能力における学習者の到達度レベルの実態を正確に測ることは難しい。タイ語の言語的特質としては、日本語や欧州言語とは異なる特徴である声調などの音韻体系やタイ文字による独自の書記体系といった要素があり(スニサー2017b)、現行の東京外国語大学のカリキュラムでは、CEFR A1 レベルの学習に入る前に、1 年生は文字の仕組みを 1 学期(約 4 ヶ月)かけて基礎を学習している。また、タイ語特有の社会・文化的特質としては、社会的立場の確認、距離を縮める、配慮表現、コミュニケーション・ストラテジー、文体の違い、といった 5 つの特徴が挙げられている(スニサー2017b)。タイ語の能力を適切に測るためには、これらタイ語特有の言語的特質や社会文化的特質を反映したアンケート項目が必要となるが、タイ語能力を測定するための適切な調査項目は、今後、様々な角度から検証していく必要がある。加えて、今回の調査対象人数は限られていたため、今後は他大学でも調査を行い、より客観的なデータを収集する必要がある。また、第 3 章第 3 節で示した通り、教材と学習者の到達度レベルについて、「読む」、「書き言葉」といった能力では乖離があることが明らかになった。個々の事象においては、指導者と学習者双方の視点で、実態をより精査した上、必要な対応をしていくことが求められる。

V. 今後の展望

タイでは 2015 年末の ASEAN 経済統合体の発足による地域社会の変化と、それに伴う語学教育のニーズの変化への対応が求められている。東南アジア地域での共通語は基本的には英語となるが、訪タイ目的が、観光や知的階層の英語での交流にとどまらず、労働者の流入などへと多様化が進むに伴って、「外国語としてのタイ語教育」に注目が集まっている。しかしながら、「外国語としてのタイ語教育」は体系化されておらず、外国人向けの教材・教育法の開発は未だ初歩的な

段階にある。また、「外国語としてのタイ語教育」に関する研究は、タイ国内を含めほとんど見当たらない。タイ政府はこういった状況を踏まえ、「外国語としてのタイ語教育」のスタンダード設定の重要性を認識し、取り組みを強化する方向である。2015 年 5 月、タイ教育省高等教育局 (theOffice of the Higher Education Commission (OHEC) , Ministry of Education) が主催し、ASEAN+ 3 (日本、中国、韓国) におけるタイ語教育に関する国際会議では、その中の議題の 1 つとして「外国語としてのタイ語教育」のスタンダード設定が挙げられており、重要な課題として位置づけられていた (スニサー2017a)。

こういった「外国語としてのタイ語教育」のスタンダード化に向けた動きが徐々に見られるようになったものの、スタンダードが確立されるまでは、今回のような調査プロセスを定期的に行うことが重要と考える。カリキュラム・教材と学習者の到達度レベルの確認し、必要に応じて、都度カリキュラム・教材の見直しを行いつつ、それらの事象を共有していくことで、直近での教育現場の改善に直結するとともに、その蓄積が「外国語としてのタイ語教育」のスタンダード化につながっていくと考える。

VI. 資料：専攻語の学習者言語能力評価アンケートの質問票

CEFR A1 アンケート用紙

地域言語 A(または主専攻語)に関する学習者言語能力評価に関する調査(お願い)

このアンケートの内容は、成績には全く影響しません。
(書く必要はなく、直感的に出たもので答えてください。)

このアンケートは、科学研究費助成事業プロジェクト「アジア諸語を主たる対象とした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合研究」(研究代表者 宮澤伸夫)において、学習者の言語能力評価方法の改善と、今後の教育方法に活かすことを目的として実施するもので、それ以外の目的には一切使用しません。アンケート全体の集計・分析結果は、上記研究プロジェクトによりまとめられ、適切な方法で研究成果が還元される予定です。

※お願い
① 下の欄に、学籍番号の 4 桁を記入してください。これは所属や地域言語 A(または主専攻語)を特定するために必要な情報となりますので、間違いないようにお願いします。学籍番号の末尾 3 桁は不要です。
年 月 日
② 本アンケートで答える対象の外国語の名称と学習歴を書いてください。
年 月 日
③ 下の各質問に対して、該当する解答を○で囲ってください。

アンケート回答者の属性等について

1. 学年を選択してください。	1年	2年	3年	4年
2. 所属学部を選択してください。	言語文化学部 国際社会学部 外国語学部			
3. 性別を選択してください。	男性	女性		
4. 地域言語 A(または主専攻語)をいつ学習し始めたか(いつから使っていたか)を選択してください。 1. 大学入学後 2. 高校 3. 小中学校 4. それ以前(母語を含む)	1	2	3	4
5. 地域言語 A(または主専攻語)以外の言語を習得したことがありますか? 学習中の言語(地域言語 B, C など)を含め、次の 10 言語のうち既習の言語名を選択してください(複数選択可)。 1. 英語 2. ドイツ語 3. フランス語 4. イタリア語 5. スペイン語 6. ポルトガル語 7. ロシア語 8. 中国語 9. 朝鮮語 10. アラビア語	1	2	3	4
6. 質問 5 の選択肢以外で学習歴のある言語があれば、その言語名を右欄に記入してください(複数回答可)。	(複数選択可)			

理解する

7. はっきりとゆっくり話してもらえば、自分、家族、身近な話題に関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を理解することができる。	1	2	3	4
8. 「お名前は何?」「どこに住んでいますか?」「ここは(場所)です。」「(名前)さんは、(職業)で、(国籍)人ですか?、注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明が理解できる。	1	2	3	4

3

CEFR A1 アンケート用紙

地域言語 A(または主専攻語)に関する学習者言語能力評価に関する調査(お願い)

このアンケートの内容は、成績には全く影響しません。
(書く必要はなく、直感的に出たもので答えてください。)

このアンケートは、科学研究費助成事業プロジェクト「アジア諸語を主たる対象とした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合研究」(研究代表者 宮澤伸夫)において、学習者の言語能力評価方法の改善と、今後の教育方法に活かすことを目的として実施するもので、それ以外の目的には一切使用しません。アンケート全体の集計・分析結果は、上記研究プロジェクトによりまとめられ、適切な方法で研究成果が還元される予定です。

※お願い
① 下の欄に、学籍番号の 4 桁を記入してください。これは所属や地域言語 A(または主専攻語)を特定するために必要な情報となりますので、間違いないようにお願いします。学籍番号の末尾 3 桁は不要です。
年 月 日
② 本アンケートで答える対象の外国語の名称と学習歴を書いてください。
年 月 日
③ 下の各質問に対して、該当する解答を○で囲ってください。

表現する

9. 「読んでください。」「書いてください。」「右に曲がってください。」「など、短い簡単な指示を理解することができる。	1	2	3	4
10. 全体の内容を読み取り、理解することはできないが、話し相手のはっきりとゆっくりと、繰り返しを交えた、身近で日常的な語をある程度理解することができる。	1	2	3	4
11. 非常に限られたレパートリーでの、学習・練習済みの単語や言い回しなら、多少努力すれば理解できる。	1	2	3	4
12. 非常に基本的な範囲で、短くて単純なテキストを、身近な名前や単語を取り上げながら読み上げ、必要であれば読み直しながら理解することができる。	1	2	3	4
13. 指示やスケジュール、スケジュールの中のとらえている名前、単語、単純な文を読んだ、基本的な情報を把握することができる。	1	2	3	4
14. 駅やバス停にある表示(例:「出口」、「のりかえ」、「トイレ」、駅や停留所の名前など)を見て、理解することができる。	1	2	3	4
15. デパートや市場にある商品名や値段を見て、情報を把握・理解することができる。	1	2	3	4
16. レストランや食堂のメニューおよび値段を見て、情報を把握・理解することができる。	1	2	3	4
17. 友達や知人からのハガキやメッセージカードにある簡単な文章や挨拶言葉を読んで、理解することができる。	1	2	3	4
18. 短い、簡単な書かれた方向指示(例:「左」、「右」、「上」、「下」など)を読み取り、理解することができる。	1	2	3	4

書く

19. 身近で馴染みのある話題について簡単な語句や文を使って表現できる。	1	2	3	4
20. 自分自身又は知っている人らについて、簡単な文を使って話すことができる。	1	2	3	4
21. 「友達、前の金曜日、11 月には、3 時に」などの表現を用いて時を知らせることができる。	1	2	3	4
22. 関が多岐にわたる、非常に短い、単純な、多くは予め準備しておいた表現(例: 料理のレシピ、スピーチの紹介など)を行うことができる。	1	2	3	4
23. 職業(人)以上の前で、簡単な表現を使って、ゆっくり、自分のことを紹介(名前、職業、国籍など)することができる。	1	2	3	4
24. 基本的な挨拶表現(例: こんにちは)には、いたたきます、すみません、さようなら、などを使うことができる。	1	2	3	4
25. 直接必要なこと、もしくはごく身近な話題(例: 旅行、これまでの経験、天気など)についての簡単なことを、自分から言うことができる。	1	2	3	4
26. 身近で馴染みのある、日常的な事柄について簡単な表現や文法、語彙を使って、文章を作ることができる。	1	2	3	4
27. 簡単な記号や指示、日常的な物の名前、店の名前や表現など定型表現など、馴染みのある単語や短い言い回しを書き出すことができる。	1	2	3	4
28. 簡単な短い挨拶表現: 「お誕生日おめでとうございます。」「お休んでください。」「など、自分の名前や年齢、性別、国籍、誕生日、好きな食べ物、好きな色、好きな映画などについて、簡単な文法構造や構文を使うことができる。	1	2	3	4
29. 求められれば、数、日付、自分の名前、国籍、住所、年、生年月日、入国日などの個人的な情報を書くことができる。	1	2	3	4
30. 間違いはあるが、学習済みのレパートリーの中から、限られた、いくつかの単純な文法構造や構文を使うことができる。	1	2	3	4

読む

29. 身近で馴染みのある話題について簡単な語句や文を使って表現できる。	1	2	3	4
20. 自分自身又は知っている人らについて、簡単な文を使って話すことができる。	1	2	3	4
21. 「友達、前の金曜日、11 月には、3 時に」などの表現を用いて時を知らせることができる。	1	2	3	4
22. 関が多岐にわたる、非常に短い、単純な、多くは予め準備しておいた表現(例: 料理のレシピ、スピーチの紹介など)を行うことができる。	1	2	3	4
23. 職業(人)以上の前で、簡単な表現を使って、ゆっくり、自分のことを紹介(名前、職業、国籍など)することができる。	1	2	3	4
24. 基本的な挨拶表現(例: こんにちは)には、いたたきます、すみません、さようなら、などを使うことができる。	1	2	3	4
25. 直接必要なこと、もしくはごく身近な話題(例: 旅行、これまでの経験、天気など)についての簡単なことを、自分から言うことができる。	1	2	3	4
26. 身近で馴染みのある、日常的な事柄について簡単な表現や文法、語彙を使って、文章を作ることができる。	1	2	3	4
27. 簡単な記号や指示、日常的な物の名前、店の名前や表現など定型表現など、馴染みのある単語や短い言い回しを書き出すことができる。	1	2	3	4
28. 簡単な短い挨拶表現: 「お誕生日おめでとうございます。」「お休んでください。」「など、自分の名前や年齢、性別、国籍、誕生日、好きな食べ物、好きな色、好きな映画などについて、簡単な文法構造や構文を使うことができる。	1	2	3	4
29. 求められれば、数、日付、自分の名前、国籍、住所、年、生年月日、入国日などの個人的な情報を書くことができる。	1	2	3	4
30. 間違いはあるが、学習済みのレパートリーの中から、限られた、いくつかの単純な文法構造や構文を使うことができる。	1	2	3	4

聞く

7. はっきりとゆっくり話してもらえば、自分、家族、身近な話題に関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を理解することができる。	1	2	3	4
8. 「お名前は何?」「どこに住んでいますか?」「ここは(場所)です。」「(名前)さんは、(職業)で、(国籍)人ですか?、注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明が理解できる。	1	2	3	4

6

CEFR A1 アンケート用紙

地域言語 A(または主専攻語)に関する学習者言語能力評価に関する調査(お願い)

このアンケートの内容は、成績には全く影響しません。
(書く必要はなく、直感的に出たもので答えてください。)

このアンケートは、科学研究費助成事業プロジェクト「アジア諸語を主たる対象とした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合研究」(研究代表者 宮澤伸夫)において、学習者の言語能力評価方法の改善と、今後の教育方法に活かすことを目的として実施するもので、それ以外の目的には一切使用しません。アンケート全体の集計・分析結果は、上記研究プロジェクトによりまとめられ、適切な方法で研究成果が還元される予定です。

※お願い
① 下の欄に、学籍番号の 4 桁を記入してください。これは所属や地域言語 A(または主専攻語)を特定するために必要な情報となりますので、間違いないようにお願いします。学籍番号の末尾 3 桁は不要です。
年 月 日
② 本アンケートで答える対象の外国語の名称と学習歴を書いてください。
年 月 日
③ 下の各質問に対して、該当する解答を○で囲ってください。

コミュニケーションする

31. 「そして」や「それから」のような、非常に基本的な文法表現を用いて単語や語句をつなげることができる。	1	2	3	4
---	---	---	---	---

書く

32. 相手にゆっくり話し、繰り返しを交え、言い換えたりして、また自分が言いたいことを表現するために助けを借りてくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。	1	2	3	4
33. 「お名前は?」「どこに住んでいますか?」「ここは(場所)です。」「(名前)さんは、(職業)で、(国籍)人です」など、注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明が理解でき、必要であれば、聞き返すことができる。	1	2	3	4
34. 「読んでください。」「書いてください。」「右に曲がってください。」「など、短い簡単な指示を理解し、適切な反応をすることができる。	1	2	3	4
35. 直接必要なことやごく身近な話題(例: 誕生日、週末にしたこと、天気や季節など)について、ゆっくりはっきりと話してもらえれば、簡単な質問に答えたり、聞き返したりすることができる。	1	2	3	4
36. 初めて会った人に、名前、住まい、出身、仕事などについて質問を受けたり、答えたりすることができる。	1	2	3	4
37. 知人や友人に近況を聞いて、反応することができる。	1	2	3	4
38. 挨拶や紹介、「〜してください。」「どうもありがとうございます。」「すみません」などの、最も簡単な日常的に使われる丁寧な言葉遣いで、基本的な社交関係を確立することができる。	1	2	3	4
39. 食堂やレストランで、簡単な表現や単語を用い、ゆっくりではあるが、店員に質問したり、注文したりすることができる。	1	2	3	4
40. デパートや市場で買い物をするとき、簡単な表現や単語を用い、ゆっくりではあるが、店員に質問したり、答えたりすることができる。	1	2	3	4
41. 人に物事を要求したり、尋ねることができる。	1	2	3	4
42. 数や量、費用、時間を扱うことができる。	1	2	3	4
43. ハガキやメッセージカードをもらった場合、短い簡単な返事を書くことができる。	1	2	3	4
44. 書面で個人的な具体的情報(例: 申込書など)を求めたり、伝えることができる。	1	2	3	4

※ ご協力ありがとうございました。

3

CEFR A2 アンケート用紙

地域言語 A(または主専攻語)に関する学習者言語能力評価に関する調査(お願い)

このアンケートの内容は、成績には全く影響しません。
(書く必要はなく、直感的に出たもので答えてください。)

このアンケートは、科学研究費助成事業プロジェクト「アジア諸語を主たる対象とした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合研究」(研究代表者 宮澤伸夫)において、学習者の言語能力評価方法の改善と、今後の教育方法に活かすことを目的として実施するもので、それ以外の目的には一切使用しません。アンケート全体の集計・分析結果は、上記研究プロジェクトによりまとめられ、適切な方法で研究成果が還元される予定です。

※お願い
① 下の欄に、学籍番号の 4 桁を記入してください。これは所属や地域言語 A(または主専攻語)を特定するために必要な情報となりますので、間違いないようにお願いします。学籍番号の末尾 3 桁は不要です。
年 月 日
② 本アンケートで答える対象の外国語の名称と学習歴を書いてください。
年 月 日
③ 下の各質問に対して、該当する解答を○で囲ってください。

理解する

7. 直接自分に関連した領域(ごく基本的な個人や家庭の情報、買い物、近所、仕事など)や最も頻りに使われる語彙や表現を理解することができる。短い、はっきりとした簡単な文法から文法を聞き取る。	1	2	3	4
8. はっきりとゆっくりとした発音ならば、直接本人に直接のある事柄(例: 個人や家庭についての情報、買い物、住んでいる地域の地理、現在の仕事など)に関連したことが理解できる。	1	2	3	4

6

CEFR A2 アンケート用紙

9.	母語話者同士の議論を聞いて、ゆっくりと、はっきりした発音かつ身近な話題ならばある程度理解できる。	1	2	3	4
10.	はっきりとゆっくりとした話されている短い音声メディアや録音(例: 店内の案内放送、駅店の案内など)を聞いて、必要な情報を取り出し、要点を聞き取るができる。	1	2	3	4
11.	徒歩や公共交通機関を使って X から Y ままでどうやって行くのかという簡単な説明を聞いて理解できる。	1	2	3	4
12.	ごく短い簡単なテキストから、日常の単純な具体的に予測がつく情報を取り出し、理解することができる。	1	2	3	4
13.	よく使われることばや表紙で書かれた、国際的共通語彙(例: アレンジ、インフォメーションなどの外来語、英数字など)もかなり多い、短い簡単なテキストが理解できる。	1	2	3	4
14.	身近な話題についての日常の手帳やメール(例: 予約の案内、通帳やオンラインショッピングの注文確認に関する内容など)から必要な情報を取り出し、理解できる。	1	2	3	4
15.	友人や知人からの短い手帳を理解できる。	1	2	3	4
16.	広告、請求書、メニュー、時刻表のような、簡単な日常の資料の中から必要とする情報を見つけることができる。	1	2	3	4
17.	参考書、書籍リストなどのような、目次やリストの中から特定の情報を見定めて、必要とされる情報を抜き出すことができる。	1	2	3	4
18.	日常の看板(例: 道路、レストラン、最速の駅などのもの)や掲示(例: 職場での仕事の指示など)を理解することができる。	1	2	3	4
19.	手帳、パンフレット、新聞の短い記事のような、簡潔なテキストの中から特定の情報を取り出すことができる。	1	2	3	4
20.	簡単な言葉で表現されていれば、安全のためのものの規則や製品使用説明書などを理解できる。	1	2	3	4
21.	日常生活で見る機器(例: 携帯電話、ノートパソコンなど)についての簡単な説明を理解できる。	1	2	3	4
22.	映像と実況説明がほとんど重要なならば、出来事や事故を伝えるテレビのニュース番組の要点がだいたい分かる。	1	2	3	4
23.	事実報道のテレビニュースの話題が変われば、そのことに気がつき、さらに、その内容を大まかに理解できる。	1	2	3	4
24.	日常の具体的な内容や話題(例: 旅行、買い物、住んでいる町など)の短いテキストや、発話の全体の意味を手がかりに、知らない事項のおおよその意味を推測し、文脈から引き出すことができる。	1	2	3	4

表現する	できる	あまりできない	なんともいえない	理解できない
25. 家族、周囲の人々、居住条件、学歴、職業を簡単な言葉で一語の語句や文を使って説明できる。	1	2	3	4
26. 話に出した仕方の間違いや、間が空いたり、言い直しが非常にはっきり見られるもの、短い話ならできる。	1	2	3	4
27. 覚えにくい何かの言い回しや数少ない語句、あるいは正式表現、基本的な構文を使って、日常の単純な状況の中での、覆られてはいるが情報を伝えることができる。	1	2	3	4
28. 決まったところで、まだ基本的な間違い(例: 文法や動詞など)が出てくるが、いくつかの単純な構文を正しく用いることができる。	1	2	3	4

2

CEFR A2 アンケート用紙

29.	質問に答えられ、簡単な話に対応することができる。自分で会話を続けることができるほどには完全に理解できていないことが多いが、相手の話についていっていることを分らせることができる。	1	2	3	4
30.	人物や生活・職場環境、日課、好き嫌いなどについて、準備すれば、単純な記述や口頭発表ができる。その際、簡単な字句や文を並べられる。	1	2	3	4
31.	自分の周りの環境(例: 人や場所、仕事、学習経験、週末の計画など)について話すことができる。	1	2	3	4
32.	身近な話題について、事項を列挙して簡単に述べたり、物語るができる。	1	2	3	4
33.	出来事や活動の要点を短く述べることができる。	1	2	3	4
34.	簡単な表現やことばを用いて、事物や所有物について短く述べたり、それを出発点とする。	1	2	3	4
35.	質問を繰り返して貰ってもいい、回答するのに何らかの助けを出してくれる人があるなら、話し終えた後から出される簡単な質問に答えることができる。	1	2	3	4
36.	意見、計画、行動に対して、理由を挙げて、短く述べることができる。話し終えた後、短い簡単な質問に答えることができる。	1	2	3	4
37.	自分のレパートリーの中から場面に応じた、適切な表現を思い出して、使ってみることができる。	1	2	3	4
38.	直接も自分の指し示して、伝えたいことを相手に分らせることができる。(例: 「これは私がローパンパに行ったとき、ドイツで買ったものさし」)	1	2	3	4
39.	手持りの語彙の中から不適切な言葉を使っても、言いたいことははっきりときらせるためにジェスチャーを思いながら話すことができる。	1	2	3	4
40.	「そして」、「でも」、「なぜなら」などの簡単な接続表現を使って単語の集まりを結びつけて話すことができる。	1	2	3	4
41.	簡単な言葉で自分の感情を表現することができる。	1	2	3	4
42.	直接必要のある領域での単純なら簡単に短いメモやメッセージを書くことができる。短い個人的な手紙を書くことができる(例えば状況など)。	1	2	3	4
43.	印刷物または明確に書き置かれた短いテキストを書き写すことができる。	1	2	3	4
44.	自分の周りにある日々のいろいろな事柄(例: 人物、場所、仕事や学習経験など)について、つながりのある文を書くことができる。	1	2	3	4
45.	家族、生活環境、学歴、現在または最近の仕事について、継続的(例: そして、でも、なぜならなど)を用い、簡単な句や文を連ねて書くことができる。	1	2	3	4
46.	学習者の置かれた能力と経験の範囲内で、短いテキストからのキーワード、表現、短い文を参考にして、書くことができる。	1	2	3	4
47.	過去の出来事、活動、個人的な経験の記述を短い文で書くことができる。	1	2	3	4
48.	想像上の人物などを題材にして、短く簡単な物語や詩を書くことができる。	1	2	3	4

コミュニケーションする	できる	あまりできない	なんともいえない	理解できない
49. 単純な日常の仕事の中で、情報の直接のやり取りが必要ならば、身近な話題や活動について話し合いができる。通常は会話を続けていだけの理解力はないのだが、短い社交的なやり取りをすることはできる。	1	2	3	4
50. 簡単な日常会話で、自分に対してはっきりとゆっくりと、直接言われたことを理解できる。	1	2	3	4
51. 旅行や、バス、列車、タクシーなどの公共の交通機関についての簡単な情報	1	2	3	4

3

CEFR A2 アンケート用紙

を得ることができる。				
52. 友人・知人または通りかかりの人に行き方を聞いたり、教えたりすることができる。	1	2	3	4
53. 駅や美術館などで切符やチケットを買うことができる。	1	2	3	4
54. 疑問点を尋ね、店、郵便局、銀行で簡単な用を済ませることができる。	1	2	3	4
55. 量や数、値段などの情報を与えたり、取得することができる。	1	2	3	4
56. 量や数、値段などの情報を与えたり、取得することができる。	1	2	3	4
57. レストランや飲食店などで、食事を注文することができる。	1	2	3	4
58. あまり苦労しないで簡単な日常の話題をこなす。必要な情報や事実に基づく簡単な情報(例: 電話番号、住所など)をある程度まで交換することができる。	1	2	3	4
59. 聞き手が集中して聞いているとすれば、練習した上で、予測可能な身近な内容の事柄(例: 飲み会や誕生日パーティーなど)について、短いアタラシきことができる。	1	2	3	4
60. 習慣や日常の仕事について質問をし、答えることができる。	1	2	3	4
61. 結果や過去の活動について質問をし、答えることができる。	1	2	3	4
62. 簡単な説明や指示(例: どこへ行くかを説明する、機械の使い方を説明するなど)を与えたり、理解することができる。	1	2	3	4
63. 仕事や自由時間に関するものについて質問をしたり、答えたりすることができる。	1	2	3	4
64. 地図や図面を参照しながら目的地について聞いたり、答えたりすることができる。	1	2	3	4
65. もし必要がある場合に相手に助けを求めれば、予め決まっているような状況(例: 旅行の計画)、短い会話でなら、比較的容易に対処ができる。	1	2	3	4
66. 時々繰り返したり言い換えを求めることが防されるなら、自分に向けられた、身近な事柄について、はっきりとした標準語での話はいくぶん理解できる。	1	2	3	4
67. 非常に短い社交的なやり取りには対応できるが、自分から会話を進められるほどには理解できていない場合が多い。	1	2	3	4
68. 挨拶、別れ、紹介、感謝などのやり取りにおける簡単な日常の丁寧な形式を用いて、社会的関係を確立することができる。	1	2	3	4
69. 招待、提案、謝罪における適切な表現を用いて話すことができ、またそれらに応じることができる。	1	2	3	4
70. 友人や知人とのはっきりとゆっくりとした議論で、自分の関わる身勝手ならば、通常自分の周りで議論されている話題(例: スポーツや物価)はおおむね分かる。	1	2	3	4
71. 他の人の意見に賛成や反対ができる。	1	2	3	4
72. 何をしたいか、どこへ行くのかを話して、合意の案を決めることができる。	1	2	3	4
73. 議論がゆっくりとはっきりなれば、自分の専門分野に関連した公式の議論での話題の動き・変化をおおむね理解できる。	1	2	3	4
74. 理解できない場合は、単に繰り返して求めるだけで、あまり苦労せずに簡単な日常の話題にうまく対処できる程度に理解できる。	1	2	3	4
75. 提案したり、出された提案に応じて、指示を求めたり出したりしながら、次にすることを検討できる。	1	2	3	4
76. 話について行っていることを聞き手に分らせることができる。	1	2	3	4
77. 簡単な表現を使って日常の話題(例: 旅行、宿泊、食事、買い物)に関するやり取りができ、物を買ったり、与えたり、簡単な情報を得たり、次にすること	1	2	3	4

4

CEFR A2 アンケート用紙

を話し合うことができる。				
78. 簡単に特別な専門的でない普通の内容(例: 空席状況、値段など)であれば、旅行会社から必要な情報入手できる。	1	2	3	4
79. インタビューで、手助けが得られれば、自分の言いたいことを相手に理解させられるし、身近な話題についての考えや情報を伝えるなど、簡単な意見表明ができる。	1	2	3	4
80. 理解していることを身振りで示すことができる。	1	2	3	4
81. 分からないときは、繰り返してもらうよう単純な表現で頼むことができ、手持ちの表現を使って、理解できていないキーワードや表現の意味の説明を求めることができる。理解できないと言うことができる。	1	2	3	4
82. 簡単な対面での会話であれば、自分が主導的に始め、続け、終わることができる。	1	2	3	4
83. 直接必要となる内容についての短い、簡単なメモやメッセージを書くことができる。また、繰り返したり言い直して求めることが可能なら、受け取った簡単なメッセージに答えることができる。	1	2	3	4
84. 直接関連のある分野の事柄について、決まり文句を用いて、短い簡単なメモを書いて、やり取りすることができる。	1	2	3	4
85. 感謝と謝罪を表現するごく簡単な個人的な手紙を書いて、やり取りすることができる。	1	2	3	4

※ 協力ありがとうございます。

5

参考文献

- 栢田清(2012)「日本の大学言語教育における CEFR の受容－現状・課題・展望－」
『科学研究費補助金 基盤研究(B) 研究プロジェクト報告書 「EU および日本の高等教育における外国語教育政策と言語能力評価システムの総合的研究」(2012.3)』、pp.93-103.
- 篠塚勝正(2008)「言語脳科学に基づく第 2 言語習得の考察」『成城英文学』第 32 号、pp.1-18.
- スニサー・ウィッタヤーパンヤーノン(2016)『表現を身につける初級タイ語』、三修社
- スニサー・ウィッタヤーパンヤーノン(2017)『表現を広げる中級へのタイ語』、三修社
- スニサー・ウィッタヤーパンヤーノン(2017a)「CEFR を参照とした日本人タイ語学習者向け教材に関する考察 - 外国語としてのタイ語教育スタンダード開発に向けて -」『東京外国語大学論集』 No.94 pp.169 -188.
- スニサー・ウィッタヤーパンヤーノン(2017b)「タイ語教育における CEFR 適用に向けたタイ語特有の社会・文化的要素に関する考察」『東京外国語大学論集』 No.95 pp.233 -252.
- 富盛伸夫、ソ・アルム(2014)「非 EU 言語の学習者アンケート調査からみた CEFR のレベル設定と能力記述文の問題点－特にアジア諸語学習者の事例から－」『科学研究費助成事業基盤研究(B)研究プロジェクト「アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究－成果報告書(2014)－」』
- 富盛伸夫、YI Yeong-il (2016)「アジア諸語学習者における CEFR 自己評価の傾向と社会・文化的コミュニケーション能力に関わる諸問題－学習者アンケート調査(2014)の分析から－」『外国語教育研究』外国語教育学会紀要 No.19、pp.1-19.
- 富盛伸夫、YI Yeong-il (2017)「TUFS 言語モジュールを活用したアジア諸語の社会・文化的特質の指標化」 科学研究費助成事業基盤研究(B)
[50122643]2015-2017 年度「アジア諸語の社会・文化的多様性を考慮した通言語的言語能力達成度評価法の総合的研究」(研究代表者富盛伸夫)による成果発表